

# 西南学院大学 図書館報

No. 5 3

1972年4月10日発行

福岡市西新6丁目

西南学院大学図書館



## 今ぞなくなる

図書館長 清田正喜

ことしの神・文・商学部の入試国語問題のひとつに、“春霞かすみていにしかりがねは今ぞなくなり秋霧の上に”

という「寛平歌合」の題詠「はつ雁」で、紀友則がよんだ歌から、文法を問うてみた。この問題文全体の内容は「早合点をするな」という「古今著聞集」説話の一節であるが、とにかく古文は読みづらかったらしい。なにかんづく、この歌の文法的誤りは、「今ぞ」という係りの結びは連体形であるから、そこを訂正すれば正解なのである。ところが採点しながら、ふっと読解力への不安を感じた。それは、「なくなり」とか「なくなれ」とか、はては「秋霧の中に」と訂正している者があったからである。もしかしたら「鳴く」を「無く」と感じがいたのではあるまいかとさえ思った。大学の入試問題ぐらいならば、ふつう高校の国語程度の文章に慣れておれば十分なのである。しかし、大学に入学したからには、もっと大切なことは「読書」にあたって、つねに「読み」を精確に、するよう注意しておくことなのである。「読み」が浅かったり、ことばの意味をとり違えたりしては、それこそ誤解のもとになってしまう。これからはまず「読書」に1日の何パーセントかをさくことによって、学生生活をより充実したものにするよう心がけねばならない。高校時代と違って、大学ではかなり時間的には余裕ができると思う。ほんとうは大学1時間の授業に対して、図書館などにおける3時間の研究自習が要求されているのだが、実情はあまり学生にきびしくはないようである。ところで、図書館は、いわば大学の

心臓にも値する。これをおろそかにしては、研究と教育の「場」としての機能はダウンしてしまう。学生という名のとおりに、「学ぶ」ことが根本条件なのであって、「まなぶ」の語源は「まねる」から出ている。先人の書いたものをまねて、自分なりに理解し、それを教授の講義によって、さらに深めてゆき、ふたたび読書によって確めてこそ学問は進歩する。

近ごろ、東京の青山に「何もしない会」というのができて、「あまりに豊かな物質文明と忙しさの中で現代人は自己を失っている。すべてのものから自由になって自分の時間と空間を持とう」として、いっそ「何もしない」ことこそ現代の価値だときいた風な理屈をこねあげているそうである。それでも会員の中には「マンガ」を見ているのがいるというのは、しょせん、人間は何もしないでポヤーツとしておれないのであろう。せっかくの自由な自分の時間があるのなら、読書こそ現代最高の価値であると思う。もちろん、何を讀むかである。何か専門をもって読書することが肝要なのであるが、新入早々、これは望む方が無理かもしれない。それならば「広く読む」ことであり、その第一には文学的な「古典」をすすめた。多くの人々によって、幾世代をも読み継がれ、語り継がれてきた古典の数々、それは洋の東西を問わない。一作を味読したら、簡単な備忘メモに要点を記して次にすすむ。多く読めば、読むほどに若さがあふれてくる。というのは「古典」には「若い」がなく、つねに新鮮な息吹きがあるからである。これこそ「無くなる」どころか感激に今ぞ泣くばかりなのである。かくして図書館はいつでも諸君を待っている。一日に一度は必ず来館して「本」に親しんでほしい。

# 図書館の利用の仕方について

—— 新入生のために ——

課長補佐 杉 本 善 夫

大学生活に欠くことのできないものの一つに図書館がある。そこでどのように図書がならべられているか、ということについて書いてみたい。はじめにおことわりしておきたいのは限られた紙数の関係から簡略にすぎるところは、お手許に配布してある「西南学院大学図書館利用案内 1972」と併読されて理解の助けにさせていただきたい。

先ず特色として開架式図書館で、それぞれの内容による部門別閲覧制度を採用していることで、図書館各階の紹介をしたい。

## 1階

目録カード——接架制の図書館でも図書の利用を一層高めるために、また後で述べる閉架図書の利用のためには必要である。

日刊新聞——朝日新聞・毎日新聞・西日本新聞・西日本スポーツ等約10種類。

## 2階

一般教養関係——総記・哲学・心理学・倫理学・宗教・歴史・伝記（一般）・地誌、紀行・教育・数学・物理学・化学・天文学・地学、地質学・生物学・動物学・医学・薬学・芸術・体育・娯楽・語学（除英米仏）・文学（除英米仏）および雑誌。

## 3階

専門図書関係——政治・法律・経済・財政・統計・社会・民俗、風俗習慣・国防、軍事・工学、工業・家事・産業・交通・通信・語学（英米仏）・文学（英米仏）および洋書。

以上は開架図書で諸君が直接図書にあたって選択できたのですが、次に閉架部分を紹介します。利用については1階にある目録カード（下部にClosedの印が押してある）によって2階のカウンターで請求してください。

## 4階

閉架図書——本館のような開架式図書館においては全部の図書を開架において利用者の便をはかりたいが、量が多いだけが親切とは限らず、かえって検索に不便を感じる場合があるので、利用頻度の低い研究書、史料集、高価本、貴重本、和装本、岩波文庫、岩波新書、岩波全書、中公新書、紀伊国屋新書、文庫クセジュ、保育社カラーブックス、講談社現代新書、三省堂新書、東洋文庫等の小型本や洋書の大部分からなっています。

その他、外国雑誌や、内外国雑誌のバックナンバー等があります。なお図書館についての文献のいくつかを、つぎにあげておきますので参考にしてください。かっこの中の数字は請求番号です。

○ジョンソン、エルマ D. 著 コミュニケーション学芸図書刊 (010. 2. 2.)

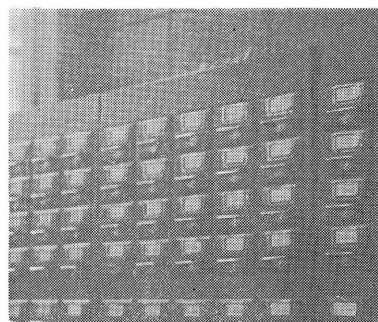
○森 清 原編 日本十進分類法 新訂 6A版 日本図書館協会 編刊 (014. 451. 2.)

○日本図書館協会 編 図書館ハンドブック 日本図書館協会 刊 (010. 36. 2-3.)

○稚名 六郎 著 図書館学概論 学芸図書刊 (010. 1. 7.)

○佃 実夫 著 文献探索学入門 思想の科学社 刊 (015. 2. 5.)

以上簡単で不明な点はその都度、係におたずねくださると共に、今後発行される館報も参考にしてください。





## 指定図書制度と教育機能

司書 今永義純

指定図書とは、アメリカの Reserved Book からきたもので、文部省が昭和41年にこの制度を採用するにあたって「教官が講義等に直接関連して、学生に必読すべきものとして指定し、多くの場合、試験、演習等の際にはその内容を出題の対象となる教官指定学生専用図書」と学生が図書館で勉強せざるをえないようなスローガンをかけました。

また新制大学における単位制は「教室における1時間の授業に対して、教室外における2時間の予習および復習」を行なうようになっていきます。

大学図書館は、教官、学生の研究と教育に奉仕する機関です。この一方の利用者である学生の利用に奉仕するために、大学における教育課程の内容と実態を常時把握

し、それに密着した収書をおこなっています。図書館側だけの意志では決定出来ない、大学における教授法そのものと直接関係する収書方針です。最近大学図書館の教育的機能が話題となっておりますが、図書館がこの役割をはたすには、この指定図書制度は新しい図書館作りに一役買うことになるでしょう。

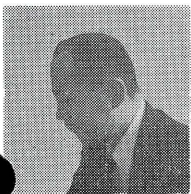
1年間の講義計画が事前に立てられ、この講義を受けるためには、つぎの本を読む(リストをあげる)、また講義が終わったならば、つぎの問題についてレポートを作成(レポートの課題がいくつも挙げられ、レポート作成上必要な本のリストを示す)。

大学での授業は、予習、復習、レポート作成ときわめて多忙であり、そのためには図書館の利用なくしては、学生生活は考えられない仕組みとなるならば図書館は大学の心臓部として大きな力となるでしょう。

教官のこの制度に対する積極的認識と、学生、図書館の三者が一体となって図書館の画期的利用推進をはかりたいものです。

## これからの図書館に期待すること

教務課長 山下和夫



この4月に教務課へ配置換えが済み、17年半お世話になった図書館に別れを告げることとなりました。思い起こしてみますと、赤煉瓦の書庫から、昭和29年に建てられた10万冊収容可能な旧図書館を経て、現在の60万冊を収容できる5階建ての新

図書館に至るまでの、図書館の規模の拡大と発展はまことに著しいものでした。施設だけではなく、文献資料や職員の面でも、昔とはくらべものにならないほど増強されています。しかし、これで十分かと言うと、決してそうではありません。時代の進展にともなって、図書館も新しい要求に応じる機能を持たなければならないからです。

そこで、これからの図書館に何を期待するか、ということ、図書館に勤めていた者の立場から、二三申し述べてみたいと思います。まず第一に文献情報管理のための態勢を整える必要があります。情報時代ということばが示すように、驚異的に増加していきつつある文献情報の中から、必要なものを収集管理し、いつでも提供でき

る状態に整備しておかねばなりません。今各方面で文献検索のためにコンピューターの導入が検討されていますがやがてこれが今後の図書館活動を大きく変革させることと思います。同時に、これからは単に図書の分量だけを誇るのではなく、むしろレファレンス(参考調査)活動に重点をおかねばなりません。書誌・索引・目録類が完備され、ある研究目的についてどのような文献が発行されているか、それはどこの図書館にあるかがすぐにわかり、要求があればすぐにそこからコピーを取り寄せるといった活動がなされねばなりません。アメリカの大学図書館ではこういった機能がたいへん重視されていると言われています。大学図書館が大量の図書の整理工場にすぎないといった姿は、早く脱皮したいものです。

第二に、職員養成の問題があります。図書館の職員は、学術文献の収集整理、文献に関する情報の調査・提供といった仕事について、かなり専門的な知識と長年の経験を必要とします。機能的な図書館活動は、すぐれた職員の養成をはかって、はじめて可能になるとさえ言えましょう。今後の大切な課題だと思います。ともあれ、大学における図書館のあり方は、たいへん重要です。教育研究の心臓だということばがあるほどですから。これから図書館がますます発展と充実が続けられますよう心から念願しています。

## 図書・雑誌管理規程の制定

国費の補助を受ける学校法人は、昭和47年度からその会計を国が示す学校法人会計基準により処理しなければならないこととなった。それにともない、学院では関係諸規程の整備がなされ、図書館については、「図書・雑誌管理規程」が制定され、この4月1日から施行される。これによって、図書・雑誌の調達・管理の原則や管理責任者の任務などが明確にされることとなった。

## 国連寄託図書館の紹介

本学図書館は、1968年6月に国際連合より国連寄託図書館の指定をうけ現在に至っている。国連寄託図書館というものは、国連が各国の指定した図書館に刊行物を寄託して、一般に公開するもので、世界で約270、日本では、現在14か所が指定されている。なかでも私大では、本学が唯一である。これも、大内教授（国際法）のご尽力によるものである。場所は、現在、図書館1階の東側のコーナーであり、閲覧室と資料室からなっている。

ところで、所蔵状態を、事務局、国際司法裁判所など6つの主要機関と専門機関及び国連外機関などの2つに大別すると、定期刊行物の総数1,551。前者では、事務局、経済社会理事会の順で、各々、小計の約3割を占め、後者では、OECD、IBRD・IDA・IFC、EC、IMCOの順となっており、OECDは、小計の約50%を占めている。その他、逐次刊行物（雑誌）101種、ドキュメント45種、別に公式記録、パンフレット、単行本などがあります。なお、利用資格には、制限はなし、休暇時その他の臨時の閉館時を除き平日、9時から16時。第1水曜日と土曜日は12時迄で閉館。貸出は、原則としてしていませんが、複写は、出来ます。どうぞ、ご利用下さい。なお、在庫数は、昭和47年3月23日現在のものです。

## < ニュース >

### 司書会

- 47. 1. 27 ①文部省の実地審査（法・商両大学院関係）の件  
②電算化準備委員、レファレンス準備委員の配置の件
- 47. 2. 18 ①九州地区大学図書館協議会の件  
②在庫調査の実施方法の件
- 47. 3. 14 ①図書館報編集案について

### 職員会

- 47. 3. 10 ①在庫調査の実施要領  
②電算化の推進について

③レファレンスの推進について

④アメリカセンターの寄贈図書について

### 研修・出張

- 46. 10. 28 福岡県大学図書館協議会（於：九大医学図書館） 箱田出席
- 46. 11. 25 " 檜出席
- 46. 12. 22 " 田中出席
- 47. 2. 1 " 田中出席

### 人事異動

- 47. 2. 18付 徳永マヤ氏、庶務課より図書館へ配置換え
- 47. 3. 31付 羽野秀明氏、退職
- 47. 4. 1付 山下司書長、教務課長として配置換え
- 47. 4. 1付 中村晴光氏任用

## "文献複写サービスのご利用を"

当館では、図書や雑誌の複写サービスを行なっています。料金は次の通りです。ご希望の方は、受付まで申してください。

| サイズ  | 単位 | 電子コピー | ゼロックス       |
|------|----|-------|-------------|
| B4   | 1枚 | 25円   | 各サイズ<br>30円 |
| A4   | "  | 20円   |             |
| B5   | "  | 15円   |             |
| A5以下 | "  | 10円   |             |

（ただし、ノート類の複写はおことわりしていますので、ご承知ください。）

## × × 奉仕係より × ×

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから本格的に当館を利用されることになりますが、大学の図書館と言いますと、高等学校の図書室とは比較できない程蔵書数も多く、建物自体も大きく独立したものになります。それで初めて利用される方は、最初戸惑うことが多いかもしれませんが、利用方法がわかれば一番効率よく勉強のできる場所です。わからないことは係員にお尋ねくだされば、親切にお答えいたしますので遠慮なく。それから館内にはり出してある掲示物には細心の注意を払ってください。（大事な事が書いてありますよ）最後になりますが、四月からは新任の先生方も当館を利用されることと思います。最初は係員も先生方の顔や名前が全然わかりませんので、カウンターの前を黙って通られますと、学内の人やら学外の人やら戸惑ってしまいます。それで一言係員に声をかけてくださることをお願いいたします。

わたくしたち館員も皆さん方に利用しやすい図書館を目指して毎日ががんばっていますので、多に当館を利用してください。（箕原）